

## ■ 一般選抜入学試験 B 日程（後期） 出題意図（科目別アドバイス） ■

## 【外国語（英語）】

本学の英語の試験は、高校学習範囲の理解と基礎学力を測る出題が中心であるため、全体として、まずは基本的な語彙・文法・語法の基礎を習得することが必要です。単語を覚える際は、前後の語との組み合わせであるコロケーションも意識してみると、より理解できるようになります。また、問題集などで文法問題や長文読解問題といった様々な問題を繰り返し解く際は、設問ごとに正解の根拠を示せるようになるとさらに良いでしょう。

第1問・第2問の長文読解問題では、本文の内容を正確に把握する力が問われます。英文を読む際は、段落ごとの要点をまとめ、文意や筆者の意図などを考えるよう普段から心がけると良いでしょう。特に、指示語や語（句）の意味を前後の文脈から推測する練習を積み重ねると文構造をより深く理解でき、内容合致問題などの対策にもなります。第3問の空欄補充問題の対策としては、多義語が持つ複数の意味や、自動詞・他動詞といった語法の違いを辞書や参考書などを用いて整理し、文脈に応じた使い分けが習得できると良いでしょう。第4問の正誤問題については、紛らわしい表現の違いを整理し、「なんとなくおかしい」ではなく、文法用語を用いて説明できるようになると理解度が深まります。

最後に、解き終えた後は、自身が間違えた問題について、「なぜ間違えたのか」という誤りの原因を自分なりに分析してみると、自身の弱点がより明確になります。こうした演習を積み重ねることで、本番で実力を最大限に発揮できるよう。

## 【国語（現代文）】

大学生としてどの専攻でも必要とされる基礎的能力は、論理的思考能力である。それは論理的に書かれた文章を正確に読解し、そこから得られた知見を整理統合して自分の考えや意見を創出し、それを論理的な構成の下に文章として表現するという一連の作業を全て可能とする能力である。現代文科目では人文・社会・自然科学の領域から現代日本語で書かれた論理的な文章を出題し、それを正確に読解する能力を試験する。そこでは必然的に現代の標準的な日本語の知識や運用能力も問われることになる。また選択肢は本文を書き換えており、それを読解して本文の記述に整合させるという作業を通じて、読解力だけではなく思考力も問うことが出題の意図である。

## 【国語（古典）】

古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の語句の意味・用法・表現について理解しているかを確認しながら、古典の文章が読めているかを確認める問題を設けている。

## 【数学】

≪教科書を中心にした試験対策を≫

「数学Ⅰ」と「数学A」の両科目の分野を、(1)「数と式」、「二次関数」、(2)「場合の数と確率」、「集合」、「データ分析」、(3)「図形と計量」と「図形の性質」というように大きく分けています。問題の範囲に偏りがないように出題してい

ます。

教科書レベルの問題がほとんどであり、教科書の内容を十分に理解することが最も良い試験対策となります。教科書の内容を理解するとともに、標準的な問題集を解くことで、実力がアップすることでしょう。図形の問題や文章題など、教科書には例題が少ない問題も出題していますが、難易度は教科書レベルを想定しています。

B日程では記述式となります。B日程の記述式では、マークシート方式では解答できない式やグラフを描く問題や言葉で説明を書くような問題を出題することがあります。

試験対策の勉強をするときはノートにしっかりと解答に至る手順も含めて記述するようにしましょう。例えば、図形に関する問題であれば、大きめに図形を描くなど工夫してみましょう。計算問題では途中経過の式を省略せずに丁寧に書きましょう。丁寧に書くことによってミスが少なくなり、記述式の問題に対応できるようになります。さらに、マークシート方式の問題においても細かいミスが減ることでしょう。

### 【地理歴史】

地理歴史は、高等学校の学習内容（日本史探究・世界史探究・地理探究）から出題する。例年、日本史分野・世界史分野から各2題、地理分野から1題の計5題のうち、1題を選択して解答する。論述をふくむ記述式の問題を通して、①歴史用語や地理用語を適切に理解していること、②それらを適切に説明できることを要求している。論述においては、対象の歴史事象・地理的事象を広い視点から理解し、その背景・経緯・影響について、必要な語句を用いて過不足なく論理的説明できる学力の有無を問っている。総じて、その因果関係をふくめて各時代の特色、各地域の景観の特質を十分に理解しているか、その習熟度をはかることを意図して出題している。